

平成 24 年度  
公益財団法人つくば科学万博記念財団  
事業報告書

自 平成 24 年 4 月 1 日  
至 平成 25 年 3 月 31 日



## 事業の総括

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、国際科学技術博覧会の意義と成果を継承し、我が国の科学技術の振興に寄与することを事業の基本方針として国際科学技術博覧会記念基金を活用し、年度事業計画に沿って各種事業を行っている。

財団は、平成 24 年 3 月 21 日に内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受け、4 月 1 日に「公益財団法人つくば科学万博記念財団」に移行した。平成 24 年度は、公益財団法人として初めての事業年度であり、各種規程の整備など引き続き新体制に必要な業務を進めるとともに、つくばエキスポセンター（以下「センター」という。）の運営をはじめ、科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流並びに産学官の研究機関の連携促進に関する事業等を実施した。

財団の財務は、センタープラネタリウムリニューアルの効果もあり入館料収入が増えたことに加え、債券の入れ替えによる売却収入を得たこと及び 11 月以降為替相場が円安に推移したことによる利息収入増など、予算を上回る収入を得た。

平成 25 年は、筑波研究学園都市建設の閣議了解から 50 周年を迎えることから、つくば市等で構成される記念事業の実行委員会に加わり協議に参加したほか、センターで関連催事を開始した。このほか、筑波研究学園都市交流協議会等の活動に対し必要な協力を行った。

平成 24 年度に実施した事業は以下の通りである。

### 1. つくばエキスポセンターの運営【公益 1・収益 1】

学校、科学館、地域の自治体、研究機関、大学等との連携強化に努めながら年度事業計画に沿って展示、催事、プラネタリウム等各事業を実施し、青少年を対象とした科学技術の普及啓発に資する多面的な運営を行った。

また、科学館としての機能強化の一環として、ボランティアインストラクターによる展示解説やアウトリーチ活動などの充実に努めた。

#### (1) 展示【公益 1】

##### ① 1 階展示場

「おもしろサイエンスゾーン」「エネルギーゾーン」を中心に科学の原理やテクノロジーに関する体験型展示物等を引き続き展示した。来館者が手で触れることができるロボットの対話コーナーを設けた。

「サイエンスシティつくば再発見」ゾーンでは、つくば市内にある 5 機関（応用地質株式会社、株式会社フジキン、独立行政法人国際農林水産業研究センター、筑波大学附属病院 陽子線医学利用研究センター（つくば国際戦略総合特

区)、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構（花き研究所）の研究活動を紹介する展示を行った。

日本化学会から新素材や材料をテーマにした展示物「きみたちの魔法 化学『新』発見」の譲渡を受け、体験型展示物の充実を図った。

平成 23 年度から継続してエントランスホールに、センター内の毎日の放射線量測定結果を掲示した。

## ②2 階展示場

先端科学技術を紹介する「夢への挑戦 - のぞいてみよう科学がひらく未来 -」では、従来の常設展示に加え、平成 23 年度に新設した「超への挑戦」ゾーンの極地研究の追加展示として研究用の南極の岩石を筑波大学から貸与を受けて展示した。11 月からは京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞する契機となった「iPS 細胞」に関する解説パネルを展示した。

来館者が多い夏休み期間に小惑星探査機「はやぶさ」の紹介展示を行った。

また、イベントスペース「創造の森“ワンダーラボ”」においてサイエンスショーやミーツ・ザ・サイエンス等のイベントを実施した。

「3D シアター」では、立体映像による「スペースツアー」「しんかい 6500」の上映を行ったほか、試行的に筑波大学と連携してカーボンナノチューブの 3D 映像コンテンツを上映した。

サイエンスギャラリーに展示物「切手で見える世界の科学技術の発展」「科学技術の『美』パネル展」の開設準備を行った。

## ③屋外展示場

H-II ロケット実物大模型やゆるぎ石等を引き続き展示した。平成 23 年度から展示を開始した我が国の科学技術の発展に貢献した実物展示として、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構と協力して、KEKB プロジェクトの電磁石（4 基）の設置場所の整備を行った。また、小惑星探査機「はやぶさ」の「はやぶさ方探アンテナ」を展示した。

南極 OB 会茨城支部の協力を受け、「南極用雪上車」の修復作業を行った。

また、「屋外ひろば」においてサイエンスショーなどのイベントを実施した。

## (2) プラネタリウム【公益 1】

光学式プラネタリウム、全天周デジタル投影システムを活用し、センター独自の「オリジナル番組」及び「星空生解説」を四半期ごとに企画・制作し上映した。

また、人気のあるキャラクターを用いた「こども番組」と、幅広い年齢層を

対象とした「特別番組」を半期ごとに上映した。

平成23年度に上映したオリジナル番組(3番組)を4月及び平成25年3月に再上映した。

オリジナル番組のうち「ゴッホが描いた星空」など4作品が茨城県外の博物館・科学館6館で上映されるなど、配給を通して他館での星空・天文の普及活動に貢献した。

證願寺住職の春日了氏を招き、「怪談プラネタリウム『よもつひらさか』」をプラネタリウムイベントとして実施した。

設備面では技術の進歩が著しい統合型プラネタリウムの全天周デジタル投影システムをリニューアルし、12月15日から一般公開した。プラネタリウムの性能向上により、デジタル投影映像の明るさ、解像度、コントラストが格段に良くなり、リニューアル以降プラネタリウムの来場者が増加した。

なお、工事期間中は、エントランスホールにエアドーム式の移動プラネタリウムを設置して上映した。

### (3) 催事【公益1】

#### ①定例催事

土・日・祝日に毎月テーマを変えて「サイエンスショー」及び「科学教室」を開催した。

また、「天体観望会」及び展示解説ツアー「エキスポ探険隊」を定期的に開催した。

#### ②特別催事

・春休みや夏休みなど入館者の多い時期に合わせて特別展「地震展～東日本大震災から1年～」 「パズル展～科学する思考に挑戦～」 「エジソンからはじまる音と電気の不思議な関係」を開催した。

特に、特別展「パズル展～科学する思考に挑戦～」では、論理的思考や工夫するという科学・技術などの研究に繋がる過程を実感してもらうため、来館者が手に取りやすく、関心を抱きやすい体験展示物等を数多く展示した。このことがリピーターの獲得につながり、センターの入館者数増に貢献した。

・研究者と入館者の交流を促進することを目的に講演会やワークショップ等を行う「ミーツ・ザ・サイエンス」を2回開催した。

つくば市および独立行政法人科学技術振興機構と連携し、「プラネタリウム」をテーマにプラネタリウムクリエイターの大平貴之氏を講師に招いて「わくわくサイエンススクール」を開催した。

・財団が主催する「第 14 回全国ジュニア発明展」の入選作品の展示会を行った。

・「宇宙の日」(9 月 12 日)の記念行事として行われる「全国小・中学生作文絵画コンテスト」を茨城県の科学館として開催に協力し、優秀作品を表彰して展示した。

・茨城県県南教育事務所などが主催する第 56 回 茨城県児童生徒科学研究作品展・発明工夫展県南地区展の展示会開催に協力したほか、優秀な作品に対し館長賞を授与した。

・科学技術週間中に「第 53 回科学技術映像祭」入選作品の上映及び「一家に 1 枚」科学のポスター展を行った。

春休み期間中に「第 10 回全国こども科学映像祭」「第 11 回全国こども科学映像祭」の入選作品を上映した。

・平成 24 年最大の天文現象である“金環日食”の安全な観察方法と日食が起こるしくみを理解してもらうために、「金環日食ワークショップ」「日食グラス工作教室」等を実施した。金環日食の 5 月 21 日は休館日だったが、吾妻小学校を始め近隣小学校の児童を受け入れて、各種望遠鏡を使った観測に加えて「太陽拡大像投影」「3m ピンホール観察器」「木漏れ日観察」「各地の日食リアルタイム中継」を実施した。また、プラネタリウムホールで高エネルギー加速器研究機構の森田洋平氏による「金環日食講演会『天文現象と私』」を開催した。観察会には 1,978 人が参加した。

#### (4) 研修等への協力

つくば市教育研究会理科研究部・理科主任研修会の開催に協力し、研修会において財団のアウトリーチ活動の紹介及びセンターの相談コーナーで使用している理科自作教材の紹介を行った。

夏休み期間を中心に 6 校の小中学校及び大学から 10 件・24 名の職場体験や職場見学学習の受入れ依頼があり対応した。

#### (5) 入館者

平成 24 年度の入館者数は、特別展来場者の増加やプラネタリウムのリニューアル効果もあり、昨年度比 21,586 人増の 182,344 人であった。この内プラネタリウム番組の入館者は、112,511 人(全体の 61.7%)であった。

平成 25 年 3 月末時点の年間パスポート会員数は、昨年度比 823 人増の 3,052 人であった。会員一人当たりの来館回数は約 5 回であった。

#### (6) 入館者誘致

茨城県県南地域を中心に隣接する県及び東京都の自治体、教育機関、観光関係事業者等に対し情報発信を行った。センターのウェブサイトを活用し、イベントやプラネタリウム新番組等の案内を行うと共に、年間パスポート会員向け情報の電子メール配信を行った。

つくばサイエンスツアーバスや「つくばちびっこ博士」など地元の事業に協力し、団体利用も含む集客に努めた。茨城県が行う観光キャンペーンに参加、協力し、つくばエキスポセンターの活動紹介を行った。

#### (7) ミュージアムショップ【収益 1】

ミュージアムショップとして相応しい品揃えに努めると共に、プラネタリウム番組やイベント関連商品のほか、センターオリジナル商品（Tシャツや多色ボールペン等）を販売し、収入増に貢献した。

#### (8) 駐車場及び施設の活用【収益 1】

来館者への便宜として平日は駐車場を無料で開放したほか、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は有料とし、収益に貢献した。

また、センターの運営に支障のない範囲で休憩室等を有料で貸与した。

#### (9) 施設・設備の修繕【公益 1】

設備の定期点検において経年劣化が認められた部品の交換を行った。

## 2. 国際科学技術博覧会記念基金事業（科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流及び科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業）

### 【公益 2・収益 2】

#### (1) 国際交流推進事業【公益 2】

①青少年を対象とする国際交流推進活動に対する支援として、公益財団法人日本宇宙少年団が主催する「宇宙飛行士の健康管理に学ぶ『ミッション X』と青少年の国際交流」に対し助成を行った。

②国際シンポジウム開催に対する支援として、「第 4 回アジアケイ素化学会議（4 th Asian Silicon Symposium）他 3 件に対し助成を行った。

(2) 産・学・官研究者等交流推進事業【公益2】

①筑波研究学園都市交流協議会が実施する「筑協 FM ラジオ番組放送事業」に対し助成を、「第3回コーディネータネットワーク筑波会議」に対し後援を行った。

②財団法人茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミーが主催する「第8回 SAT つくばスタイル交流会」「SAT テクノロジー・ショーケース in つくば 2013」を共催し、「SAT フォーラム 2012」に対する後援を行った。

(3) 普及啓発・人材育成事業【公益2】

①科学技術映像

公益財団法人日本科学技術振興財団等との共催で「第54回科学技術映像祭」を、一般財団法人日本視聴覚教育協会等との共催で「第11回全国こども科学映像祭」を実施した。

②科学館連携事業

・全国科学館連携協議会が実施する「平成24年度海外科学館視察研修」に対し助成を行った。

・橿原市立こども科学館他1館で巡回展示を実施した。また、新たに巡回用コンテンツとして「切手で見える世界の科学技術の発展」CD及び「科学技術の『美』パネル展」CDを制作した。

③青少年科学啓発

・全国の小中学生を対象に「第14回全国ジュニア発明展」を実施し、優秀な作品に対し財団理事長賞を授与し、表彰を行ったほか、入選作品をセンターで展示した。

・科学技術週間における研究施設一般公開に対する支援を行った。

・「日本生物学オリンピック2012」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。

・第5回日本地学オリンピック「ぐらんぷり地球にわくわく」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。

- ・「第 13 回全国中学生創造ものづくり教育フェア」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与し、受賞作品をセンターで展示した。
- ・「第 12 回高校生ものづくりコンテスト全国大会」（北信越）を共催した。
- ・「第 2 回科学の甲子園茨城県大会」を共催し、最優秀チームに対し財団理事長杯を授与し、当該チームの生徒及び成績上位校に対し記念品を贈呈した。
- ・「マイクロマウス 2012（第 33 回全日本マイクロマウス大会）」を共催した。
- ・「つくばチャレンジ 2012」を共催し、センターをコースのスタート地点とする施設提供を行った。
- ・第 2 回アイデアコンテスト「未来へのチャレンジャー」に対する協力として、審査委員特別賞の記念品を贈呈した。

#### ④参加体験型科学教育活動

幼稚園、学校、公民館等に対して実験機器貸出、科学出前教室、サイエンスショー等のアウトリーチ活動を実施した。実施件数は 94 件、受講者数は 9,643 名であった。

#### (4) つくばサイエンスニュース【公益 2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学等がプレス発表した科学技術研究活動の成果をウェブサイト上で分かり易く伝える「つくばサイエンスニュース」の編集・発行を行った。

平成 25 年度からの切り替えを目指し、つくばサイエンスニュースのシステム更新を行い、記事のインデックス表示機能を追加するとともに、バックナンバーを平成 18 年 11 月の創刊から現在までのすべての記事を閲覧できるよう改良しコンテンツの充実を図った。

平成 24 年度は、51 回発行し、総アクセス件数は 85,742 件、1 回（週間）当たりの平均アクセス件数は 1,681 件であった。

#### (5) 語学研修事業【収益 2】

筑波研究学園都市の公的機関、研究機関等の研究者等を対象に文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を行った。参加者数は 298 名であった。



### 3. 科学技術関係団体等に関する事業【他 1】

東京分室において、科学技術団体連合と牧友会の事務局業務を行った。

### 4. 筑波研究学園都市 50 周年記念事業への支援・協力

つくば市を中心に平成 25 年 3 月に設置された筑波研究学園都市 50 周年記念事業実行委員会にメンバーとして参加し、平成 25 年 11 月に予定される記念式典等記念事業の実施に向けた準備に協力した。

また、同実行委員会と共催（予定）で、つくば市の小中学生を対象に開催する作文・絵画コンクール「想像してみよう 50 年後のつくば」の準備を開始した。

### 5. 広報・情報発信

#### (1) ウェブサイト

財団及びセンターのウェブサイトを活用して各種事業及びセンターの活動に関する情報の発信を行った。

平成 24 年度の財団ホームページのアクセス数は、14,717 件、センターホームページのアクセス件数は、266,336 件であった。

#### (2) パブリシティ・広告

財団の事業活動について筑波研究学園都市記者会をはじめ報道関係機関に情報提供を行った。

特にプラネタリウムや特別展等センターの活動については試写会・内覧会を開催すると共に、茨城県県南地区、つくばエクスプレス沿線地区を中心に、新聞・雑誌広告、駅広告を活用して告知したほか、自治体や企業と連携したキャンペーンに参加し入館者誘致に努めた。平成 24 年度は、225 件の取材等に対応した。

### 6. 財団の組織

公益財団法人の代表理事として理事長と副理事長、業務執行理事として専務理事を置き、事務局として企画調整室、総務部、運営業務部及び普及事業部を置き 1 室 3 部体制で業務を行った。

### 7. 代表理事、業務執行理事

公益財団法人としての業務を適切に執行し、通常理事会（6 月、3 月）及び臨時理事会（10 月）において職務執行状況報告を行った。

## 8. 会議の開催

### (1) 評議員会

- ・平成24年4月6日（金） 第1回評議員会（臨時）

公益財団法人移行について報告、名誉会長の選任、理事1名の退任・選任、規程の改正を承認した。

- ・平成24年6月20日（水） 第2回評議員会（定時）

平成23年度事業報告書及び決算報告書、理事1名の退任・選任、評議員1名の退任・選任、規程の改正を承認した。

- ・平成24年10月12日（金） 第3回評議員会（書面報告）

平成24年度事業計画書の変更（プラネタリウムプロジェクター更新）を書面にて報告した。

- ・平成25年3月19日（火） 第4回評議員会（臨時）

評議員1名の退任・選任の承認、平成25年度事業計画書及び収支予算書等を報告した。

### (2) 理事会

- ・平成24年4月1日（日） 第1回理事会（臨時）

理事全員及び監事出席の下、公益財団法人移行について報告、名誉会長及び相談役の選任、規程の制定等を承認した。

- ・平成24年6月12日（火） 第2回理事会（通常）

平成23年度事業報告書及び決算報告書を承認した。

- ・平成24年10月12日（金） 第3回理事会（臨時）

平成24年度事業計画書の変更（プラネタリウムプロジェクター更新）を承認した。

- ・平成25年3月7日（木） 第4回理事会（通常）

平成25年度事業計画書及び収支予算書等を承認した。

### (3) 基金運用委員会

- ・平成24年4月1日（日） 第1回

コールがかかった仕組外債の再投資として、仕組外債5億円の購入について

意見を求めた。

平成 24 年度基金運用計画等について報告した。

- ・平成 25 年 3 月 7 日（木） 第 2 回  
格付の下がった保有債券の取り扱いについて意見を求めた。  
基金の運用状況と見通しについて報告した。

## 9. 職員の資質向上

「第 22 回全国科学館連携協議会総会」「第 20 回全国科学博物館協議会研究発表大会」に参加し、巡回展示物「切手で見る世界の科学技術の発展」について発表した。

「全国科学館連携協議会海外科学館視察研修（マレーシア、シンガポール、インドネシア）」に参加し、管理運営や展示技術・手法、教育普及事業など活動の実情を調査した。

「日本プラネタリウム協議会総会」「全国プラネタリウム研修会」「プラネタリウムスカイマックス DS 研修会」に参加した。

ボランティアインストラクターを対象に、大強度陽子加速器施設（J-PARC）及び国立科学博物館収蔵庫の見学会を実施した。

## 10. その他

平成 23 年度に引き続き電力消費を抑えるため、センターの入館者及び業務に支障のない範囲で節電を実行した。

年 2 回の実施が法令で義務付けられている消防訓練を 7 月及び 3 月に行った。